

加工に適した溝の浅い‘西条’の選抜

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

‘西条’は鳥取県のカキの栽培面積の半分を占める品種である。‘西条’は、脱渋して青果として販売されるほかに、アンボ柿や干し柿に加工して販売される。加工時に果皮をむく必要があるが、西条に特有の溝があるため、溝が深い果実は、自動皮むき機で皮をむいた場合には、溝部に果皮が残ってしまうことがある。このため、溝が浅く加工に適した系統の選抜についての要望があったことから、加工に適した優良系統の選抜を行った。

(2) 情報・成果の要約

溝の浅さ、玉揃い、果実品質から判断すると、B系統、MTが加工に向くと思われた。

2 試験成果の概要

(1) 選抜試験

1) 試験方法

溝の浅い‘西条’の穂木を現地園から採取し、持ち帰った 29 系統と試験地が過去に選抜に使用した系統を成木 5 樹に高接ぎを行った。2008 年から一部の系統に結実がみられ、2009 年から果実調査を開始した。

2) 試験結果

溝の浅さ、玉揃い、果実品質から判断すると、B系統、MTが加工に向くと思われた。B系統は、長円形で果頂部がやや丸く、MTは、長円形で果頂部がやや尖った果形であった(表1)。

収穫期は、B系統とNO. 2は、ほぼ同時期である。MTの収穫始めはNO. 2よりやや遅く、収穫終わりはかなり遅いため、収穫期間が長いという特徴がある(表2)。

J A鳥取いなばにご協力いただき、自動皮むき機で皮をむいたが、両系統ともほとんど溝に皮が残らなかった。その果実をアンボ柿に加工し、食味、食感等についての比較を行ったが、両系統とも食味がよかった。

表1 選抜系統と既存系統の果実品質(2013)

系統名	溝の深さ (mm)	果形(mm)			果重(g)	糖度(%)	調査日
		長径	短径	高さ			
B系統	0.21	66.0	63.9	81.5	204.4	19.9	10/29
MT	0.25	64.5	63.0	86.4	204.7	20.4	10/29
NO. 0	1.99	69.4	67.3	78.3	210.7	21.5	10/18
NO. 2	1.14	68.8	66.8	84.4	223.4	19.8	10/18
G系統	0.99	69.4	67.2	84.1	230.8	21.9	10/31
普通西条	0.96	67.0	64.2	84.6	212.4	21.7	10/31

表2 各系統の収穫期(2009)

系統名	収穫期		
	始め	盛期	終わり
B系統	10/13	10/18	11/1
MT	10/15	10/24	11/14
NO. 0	9/27	10/14	10/25
NO. 2	10/11	10/23	11/4
G系統	10/30	11/9	11/13
普通西条	10/23	11/2	11/10



写真1 各系統の果実

3 利用上の留意点

(1) 注意事項

本試験結果は、園芸試験場河原試験地での試験結果である。

4 試験担当者

〔河原試験地 地 長 小谷 和朗〕
北川 健一※

※現 中部総合事務所東伯農業改良普及所